

令和7年度 目黒区立上目黒小学校 学校評価報告書

1 学校評価委員会の実施日時

令和8年 1月24日（土） 11時45分～12時25分

2 参加者

学校評議員4名 校長 副校長

3 評価の結果等（肯定的評価の割合と前年度との比較 数値単位%）

評価項目	アンケートの結果分析 ◎成果 ●課題	次年度の教育活動の改善点	学校評価委員会での意見
1 学校全体について ・学校の雰囲気、教職員の対応、地域との連携、教育活動への満足度について	◎保護者は学校での児童の様子を肯定的に捉えている。また、本校の教育活動や教職員の対応に概ね満足している。 ◎どの学年も保護者、地域と連携しながら教育活動を実施したことが高い結果につながった。	・個人では課題を抱えている児童がいる。児童に対する細やかな対応と、校内委員会や関係諸機関と連携しながら課題解決に努める。 ・地域には、肯定的な評価をいただいたが、学校のことはよく分からないと回答された方が3割程度いたため、本校の教育活動を広く知ってもらう必要がある。	・学校公開や行事での学校の雰囲気はよく、どの児童も楽しく生活しているように感じる。教職員のまとめり、保護者の雰囲気を含め、よい方向に向かっていると感じている。
2 教育目標について ・児童の実態に合った教育目標、指導の重点について	◎本校の教育目標に対する保護者の教育活動への理解が高まった。 ◎地域と連携した教育活動を重視した結果、地域の方々に本校の取組に共感いただけたことが多くなった。	・重点目標である地域と連携した教育をより充実させるために、本年度、実施した授業をさらに充実させる。 ・自転車安全教室や地域の行事は、引き続き学校公開日の午後と合わせ、保護者・地	・教育目標を地域に周知することは難しいかもしれない。学校公開等を通して、地域の方々が学校へ足を運んでくれると雰囲気を感じてくれるのではないかと感じている。

	◎地域の行事は、学校公開日の午後と合わせたことで、保護者・地域・児童・学校が参加しやすくなった。	域・児童・学校が参加しやすいようにする。	
3 心の教育について ・道徳科の授業の充実や児童・生徒の道徳的実践力向上のための取組について	◎授業では、自分自身や他者との対話を通して多面的・多角的に考えることを大切にしてきたことが道徳性の育成につながっている。 ●高学年は高い水準だが、数名程度、他者への思いやりや命を大切にすることの自己評価が低いため、より寄り添った心の教育が必要である。	・不登校の案件については、組織委員会を開催するとともに、関係諸機関とも連携して解決に努めているところである。	・授業では、児童同士が意見交換をする場面が多く設定されており、お互いを認め合う力が育ってきている。
4 学習指導等について ・学力向上のための授業改善、少人数指導の充実、主体的に学習に取り組む態度の育成について ・情報端末の活用について	◎少人数指導、自由進度学習や教員間交換授業を実施したことで、一人ひとりの理解度や関心に合わせた学びに結びついた。 ●高学年において、学習の理解が難しいと感じている児童がいる。児童のつまづきに対する分析と対応が必要である。	・自由進度学習や教員間交換授業を充実させ、一人ひとりに応じたきめ細やかな学習指導を実現させる。 ・目標達成のために必要な行動や学習方法を自ら考えて実行し、改善していくような自己調整学習を重視していく。	・児童が自分の意見をしっかり伝えている様子が多く見られた。講義型の授業ではなく、対話を大切にした授業が実施されている。
5 体育・健康教育について ・体力向上、健康の促進のための取組について	◎パワーアップタイムや保健指導、給食指導を継続した結果、高い水準となった。 ●高学年になると、体を動かす機会が減ったり、生活リズムが乱れたりする児童が	・引き続き保健指導や給食指導では、体と健康についての指導を重点目標とする。 ・生活リズムの悪化が不登校につながらないよう、家庭や必要に応じて関係諸機関	・意見なし。引き続き体力向上、健康の促進のための取組を充実させていく。

	<p>増えているため、家庭との連携で対応していく必要がある。</p>	<p>と連携する。</p>	
<p>6 特別活動について</p> <p>・学校行事、たてわり班活動、クラブ・委員会活動の充実について</p>	<p>◎地域や保護者には、学校の行事や特別活動に対して理解とご協力をいただいた。</p> <p>●1割の児童がさまざまな特別活動に対して主体的に取り組めていないため、改善が必要である。</p>	<p>・児童が主体的に、実践的に活動に取り組めるような環境と具体的な仕組みづくりを行う。</p> <p>・地域には、肯定的な評価をしていただいたが、よく分からないと回答された方が4割程度いたため、本校の教育活動を広く知ってもらう必要がある。</p>	<p>・学習発表会（展示型）では、空間を大きく使った会場の雰囲気が素晴らしかった。児童の数値が若干下がっているが、特別活動に対しての学校側の工夫が感じられる。</p>
<p>7 学校生活全般について</p> <p><生活指導></p> <p>・学習や生活規律、落ち着いた学校生活について</p>	<p>◎学習や生活のきまりを見直し、各学級での指導を統一したことや、支援員を適切に配置したことが落ち着いた学校生活につながった。</p> <p>●低学年の段階で規律を含めた生活指導を重視し、高学年へつなげる必要がある。</p>	<p>・引き続き、学習や生活規律に関する指導は、学校全体で共有し、取り組む。</p> <p>・学校以外での生活に関して、公共のマナー等を身に付けさせるための手立てを家庭と共有する必要がある。</p>	<p>・落ち着いて学校生活を送っている児童が多い印象である。地域と学校のつながりが深い分、地域のイベントにも積極的に参加している児童も多い。</p>
<p><防災教育・安全指導></p> <p>・事件、事故や災害に関する安全教育について</p>	<p>◎避難訓練、セーフティ教室、情報モラル教育などの内容を実態に合ったものにするなど充実させることができた。</p>	<p>・引き続き、避難訓練、セーフティ教室、情報モラル教育を実施する。</p> <p>・令和8・9年度安全教育推進校として安全教育について研究・実践する。</p>	<p>・来年度の安全教育推進校としての取組の充実を図る上で、地域と連携ができる場面があるのではないかと。</p>

<p><幼・保・小・中連携></p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校、同じ中学校区の小学校、近隣の幼稚園・保育園との連携について 	<p>◎年3回の小中連携授業、保育園児の給食体験・1年生との交流、他校の研究発表会への参加など、連携を深め、教育活動をすすめた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小中連携授業、保育園との交流などを継続するとともに内容の充実を図る。 ・保護者には、肯定的な評価をしていただいたが、よく分からないと回答された方が1割程度いたため、本校の教育活動を広く知ってもらう必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校同士がどのように連携しているのか見えにくい面がある。実際の様子を伝える手段があるとよい。
<p>8 情報の発信、家庭・地域との連携について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育活動に関する情報発信について 	<p>◎保護者連絡システム H&S を活用した情報発信が定着し、全家庭に確実に配信することができている。</p> <p>●学校ホームページを通して、学級の様子を伝えることについては課題が残った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き各種たよりの配信、配布を徹底する。 ・地域には、肯定的な評価をしていただいたが、よく分からないと回答された方が3割程度いたため、本校の教育活動を広く知ってもらう必要がある。 ・校務支援システム H&S や学校ホームページを活用し、学級の様子を伝える機会を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の各種たよりが配信、配布されており、学校の様子や教育活動の内容を知ることができている。
<p>9 教員の人材育成について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常の職務を通して専門性と協同性の育成、教育公務員の自覚について 	<p>◎教育公務員の自覚をもって日常の職務にあたることができている。</p> <p>◎昨年度に比べ、OJTや教員同士の授業公開を多く実施することができた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・OJTの年間計画を充実させ、定期的に実施する。 ・教職員の校外研修受講を促し、専門的な知識や能力を伸ばす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員のまとまりを感じている。それが学校の雰囲気によさにもつながっているのではないかと。

<p>10 教員の働き方改革について</p> <p>・「チーム学校」を意識した業務分担等、組織的な業務の効率化・最適化について</p>	<p>◎できる限りの業務の効率化・最適化を図っている。</p> <p>●教材費や校外学習費に係る経理、印刷物、各種調査等、担任が抱える事務に携わる人材の派遣制度があると業務分担や教員の負担軽減につながる。</p>	<p>・引き続き校務の効率化を図る。</p> <p>・経験年数や教員の専門性を加味した分掌組織を組む。</p>	<p>・多忙な中、いつも丁寧に対応していただいている。業務改善に向けてできることがあれば協力したい。</p>
<p>11 サービス事故防止について</p> <p>・組織的なサービス事故防止について</p>	<p>◎年間を通じたサービス事故防止研修や日々の啓発により、組織的にサービス事故防止に努めることができている。</p>	<p>・サービス事故防止研修を定期的実施する。</p> <p>・私物スマホの使用制限、個人情報の管理状況、児童への適切な指導の徹底など、定期的に教員間で確認する。</p>	<p>・引き続き、サービス事故防止に努めてほしい。</p>